

地域の実態に合った森づくりを地域とともに

合同会社ちいもり 代表社員 杉本由起

はじめに

「町として、山とどう付き合うべきかの哲学を整理したい。」

これは、森林ビジョンづくりについて最初にご相談をいただいた時の、長野県箕輪町の担当の方の言葉です。お話ししながら私は鳥肌が立ち、これはずっとやりたかった仕事への一歩目になるに違いない、そう強く思いました。

私と夫はもとも神奈川県森林職でした。10年ほど在籍しましたが思うところがあって退職し、長野県の上伊那地域に移住。地域の皆さんのおかげでパズルのピースがカチカチとはまるように物事が進み、令和6年3月、「合同会社ちいもり」を立ち上げました。

当社が目指しているのは、「市町村フォレスター」です。現場に最も近い行政組織でありながら森林の専門職員がいなくて多いのが市町村。そのサポートをするこ

とが地域の実態に合った森林管理を進める上で重要だと以前から考えていました。そんな折、冒頭の箕輪町の担当の方と出会い、森林ビジョンの策定支援を経て、現在は「地域林政アドバイザー」として、同町の林政全体のお手伝いをさせていただくようになりました。また、ありがたいことに昨年度からは近隣の辰野町、南箕輪村でも地域林政アドバイザーを務めさせていただき、「市町村フォレスター」への第一歩を踏み出すことができました。

箕輪町の「地区森林ビジョンづくり」

地域林政アドバイザーの仕事は町村ごとに様々です。ここでは箕輪町で現在取り組まれている「地区森林ビジョンづくり」についてご紹介します。

箕輪町では前述のとおり、令和5年度に

町全体の森を対象とした「箕輪町森林ビジョン」を策定しました。森林の基礎的な情報と町民アンケートの結果や、12名の策定委員や有識者との徹底的な議論を元にした「私たちが森と付き合っていきます」という、

まさに町民が主語の哲学をまとめたものになりました。

このビジョンを町内の各地区における実際の森林管理に落とし込んでいくために令和6年度から始まったのが、「地区森林ビジョンづくり」です。町民の暮らしの単位

箕輪町森林ビジョン

森林は長い時間をかけて育ちます。10年、50年、100年といった中・長期的な視点で管理をすることが大切です。また、森林は木材生産だけでなく、防災・減災から水源かん養、エネルギー利用、キノコや山菜の楽しみまで、あらゆることに繋がっており、我々は森林との関係を築くことはできません。つまりこれらからも、そこにずっとあり続ける森林（山）と、めまぐるしく変化する私たちの社会が互いに関係が深いつながりにあり、長く考え続けていく必要があるのです。

箕輪町森林ビジョンは、町民が暮らす森や山との関わり方を明文化し、町民全体で共有するものです。森林ビジョンは、森林ビジョン検討委員会の13人の委員と2人のアドバイザーを中心とした5部の会議と現地視察を開催し、町民アンケートやワークショップによる意見を取り入れ策定しました。森林ビジョンをもとにしながら、町内の森林について、みんなで考えていきますよ。

＜箕輪町森林ビジョン3つの柱～私たちが森に期待すること～＞

箕輪町の森林の3分の2は、森です。森は美しい景観をつくり、様々な恵みをもたらす一方で、時には災害などの恐ろしい一面を見せます。そんな森と付き合っていく上で、私たち箕輪町民が期待することを言葉にまとめると、次のようになります。これが、箕輪町森林ビジョンの3つの柱です。

み 災害が少なく、安全・安心であること

- 災害に強い森林づくりが行われ、土砂災害が起こりにくい
- 防災・減災を最優先に考えながら、森の活用が行われている
- 松くい虫被害対策が講じられ、松枯れによる倒木や落枝が町民生活に影響を与えない
- 山では多種多様な木々が育ち、人里に近いエリアでは獣の対応いや誘引物の管理が徹底され、人とツキノワグマなどの野生動物とが棲み分けて暮らしている

の 箕輪町の暮らしを彩り、支え、みんなが通いたくなる森であること

- 先人たちが植えて人工林を含む、森の景観そのものが、箕輪町の誇りである
- 人工林のうち、持続的な木材生産をしない森は、自然でも様々なへと徐々に変わっていく
- ウォーキングや山菜採り、キャンプなど、様々な楽しみ方があり、みんなが通いたくなる、望めば開かれる
- 自然そのものや、そこに関わる人たち同士の触れ合いを通して、大人も子どもも、気づきや学びを得られる
- 豊かな水を育み、濁水や洪水を防ぐ森として、町の暮らしを支えている



令和3年8月豪雨の被害状況



沢に倒れた木々



松枯れの被害状況



箕輪町で採れたツキノワグマ



箕輪ダムと周囲の森林



森でキャンプを楽しむ



みどりの少年団の活動風景



森林でのイベント

わ 資源を育み、もたらすこと

- 住宅や家具、薪や炭に使う木材を将来にわたって持続的に育み、産出するため、伐って植えて育てる循環が成り立っている
- 今すぐ伐って使うには採算が合わない人工林であっても、将来の木材資源になり得る
- と考える場合は、災害リスクを低減し続けて森林管理されている
- 町の森林を守り育てる人々が、その技術を研鑽し、継承する場となる

住宅や家具、薪や炭に使う木材を将来にわたって持続的に育み、産出するため、伐って植えて育てる循環が成り立っている

今すぐ伐って使うには採算が合わない人工林であっても、将来の木材資源になり得る

と考える場合は、災害リスクを低減し続けて森林管理されている

町の森林を守り育てる人々が、その技術を研鑽し、継承する場となる



産産材を使用した沢保育圃



ペレットストーブ



林業業者の作業風景



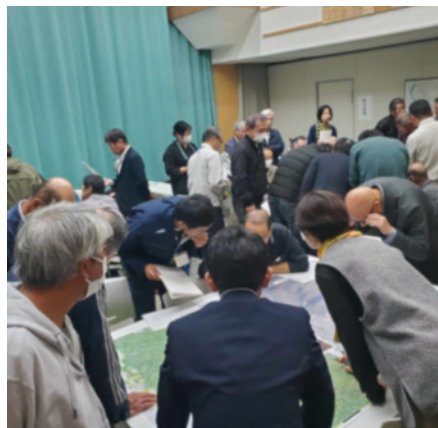
伐採跡地に植栽されたカラマツの苗木

箕輪町森林ビジョン



箕輪町ウェブサイト 箕輪町森林ビジョン
https://www.town.minowa.lg.jp/soshiki/midori_senryaku/gyomu/5/3/691.html

となっている町内15の「区」で、森林所有者への意向調査やワークショップ（WS）を行い、具体的な森の管理や利用について住民と一緒に考え、実行していくことにしたのです。



ワークショップ（WS）

地区森林ビジョン策定の大まかな流れは、「森の基礎情報や所有者情報の整理↓WS①の開催↓所有者への意向調査↓WS②の開催↓地区森林ビジョンの明文化↓実行」です。WS①では所有者の方自身身の森の位置をあらためて確認してもらおうのと同時に、施業や災害の履歴、山の見どころや先祖からの言い伝えなど、地域にしかない森の情報を引き出します。意向調査では、「第三者に管理を任せたい」「第三者が空間利用や資源利用をしてもよい」という意向のある森を地図上で見える化します。これらを踏まえたWS②では、地域の森に何を期待し、どのように管理・利用していくかについて参加者で意見を出し合い、まとめていきます。そしてみんなで決めたことを少しずつ実行していくのです。



ビジョンを森林管理に落とし込む際の考え方



区民ハイキング



ハイキング前に地域の皆さんが行った林内歩道の整備

例えば、過去に土石流災害に見舞われたある区では「防災」がキーワードとなり、防災視点を盛り込んだ区民ハイキングが実施されたほか、地域主体の防災点検もこれから始まる予定です。簡易水道を擁する区では、水源林としての管理を最優先する

方針が共有されたほか、場所によっては第三者に森林経営を委託したいという意向がまとなり、林業事業者との相談が始まろうとしています。

今回ご紹介した箕輪町のような取組を通して森の状況や地域の意思を確認し、市町村の森林整備計画に反映させていくのが、当社の目標です。各種ソーシングをGIS情報のみで役場が機械的に設定するのではなく、地域のボトムアップで設定することで、計画が実態に即したものになり、実際の森林管理が円滑になると考えるからです。

かんたん

市町村フォレストラーとしての活動はまだまだ道半ば。役場の皆さんはもちろん、林業事業者や地域の皆さんと協力しながら、これからもこうした取組みを進めていきたいと思えます。

